

製品名: BUILD.一貫V 項目1: 計算方法, 出力結果 項目2: 大梁, 剛性関係

タイトル:「BUILD.一貫V」と「BUILD.一貫IV+」の結果で「梁の部材剛性表」の曲げ剛性増大率が異なる

Q.

「BUILD.一貫V」と「BUILD.一貫IV+」の計算結果を同一物件で比較した時に、「梁の部材剛性表」の出力において、曲げ剛性増大率が異なっていました。原因は何でしょうか？

A.

代表スラブ(許容応力度計算データの[ALD4])に関する処理が以下のように変更されたためです。

「BUILD.一貫IV+」では、梁の部材剛性を求める際に代表スラブの厚さを使ってスラブによる曲げ剛性増大率を計算しますが、「BUILD.一貫V」では、配置した床組から梁に取り付くスラブ厚を認識して計算します。

よって、梁に取り付く床組に吹き抜けがある場合や、配置した床組のスラブ厚さと代表スラブの厚さが異なる場合に差が生じます。

また、S造大梁の場合には上記に加えて、合成梁の許容応力度計算時の剛性の計算方法が変わっており、「BUILD.一貫V」では日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」に準拠して合成梁の剛性を求めています。